



2006 2007  
Gifu North R.C.



# 岐阜北週報

WEEKLY REPORT

1186

例会 毎週水曜日 題字 小森 保敏  
会場 岐阜都ホテル 岐阜市長良福光桃林 2695  
tel 295-5222(代)  
事務所 岐阜商工会議所(岐阜市神田町2) tel 264-9235(代)

会長 小森 保敏  
副会長 岡田 忍  
幹事 永瀬 章  
会報記念誌委員長 谷田 育子

<http://gifukita-rc.com>



平成 18 年 11 月 22 日 発行

11 月 ローターリー財団 月間

## 本日のプログラム

第 1187 回例会 11 月 22 日(水)  
クラブアッセンブリ - (5)地区大会  
担当: 会長、幹事

第 1186 回例会 11 月 15 日(水)  
100 万 \$  
卓話  
担当: 岡田(一)会員、松野会員

- 点 鐘
- ローターリーソング「それでこそロータリー」



### 会長挨拶 小森 保敏 会長

一言ご挨拶申し上げます。本日は、岡田(一) 松野両会員の担当で卓話です、よろしくお願ひいたします。

ところで、本日は、鶏の卵についてお話したいと思います。鶏卵は卵白に含まれているリゾチームという酵素に、細菌の増殖を防ぐ働きがあるほか、卵黄は卵黄膜というバリアで守られている。賞味期限を過ぎたり、ひびが入ったりした鶏卵でも一定期限内は加熱調理すれば安心して食べられる。サルモネラ菌は熱に弱く、加熱すれば死滅するからである。調理は中心部の温度を1分間以上、70度以上にすることが目安となる。

購入した鶏卵は、すぐに冷蔵庫に入れ、10度以下で保存するとよい。パック詰め鶏卵はGPセンターと呼ばれる施設で洗浄および殺菌消毒され、包装までほとんど人の手に触れず衛生管理されている。家庭での保存は容器から出さないで、ドアポケットより棚の奥にしまうほうがよい。ドア開閉時の温度差や衝撃を受けにくいから、鮮度を保ちやすいからである。

さらに、鶏卵は丸い方を上にして保存するとよい。丸い方には「気質」という空気の入った部分があるため、卵の内部での黄身の位置が安定して、保存性が増すからである。とがっている方が卵の殻が厚いために、割れにくくなる効果があるという話をもちまして、挨拶いたします。お帰りになりましたら、若干でも奥様にお伝え頂ければ幸いに存じます。ありがとうございました。

### 出席報告 出席委員会

本日のホームクラブ	30 / 35	85. 71%
本日のホームクラブ 欠席者 5 名 若山和正君・山口八郎君・北川忠雄君・国井省二君 笠井琢哉君		

### 委員会報告

親睦交流委員会 松野 秀計 委員長

12月16日(土)にクリスマス家族例会を行います。いつもは、都ホテルで行いますが今回は、雰囲気を変えまして薔薇館にて行います。会費ですが今回は、コース料理ですので金額が細かくなっております。参加の際は、お子様の場合年齢を必ず書いて頂いて申し込み下さいます様、宜しくお願い致します。以上です。

社会奉仕委員会 岡田 一二三 委員長

12月4日(月) 美谷学園の散発奉仕協力の御願ひで御座います。8~9名程、サムソンのスタッフの方に来て頂き、午前9時からお昼頃まで散発奉仕をして戴きます。私達も伺いますが会員の皆様でお時間のある方がいらっしゃいましたら是非参加して戴きたいと思ひます。宜しくお願い致します。以上で御座います。

ニコニコボックス 神谷 良子 委員

- \* 片桐順一郎君・・・1月8日いい事がありました。
- \* 永瀬章君・・・17年前の本日入会させて戴きました。時の流れを感じております。今後とも、宜しく。
- \* 部田拓君・・・今日も元気です。
- \* 岡田一二三君・・・松野さん卓話宜しく。
- \* 松野秀計君・・・本日卓話です。宜しくお願い致します。
- \* 三島隆雄君・・・本日も宜しく。

## 例会行事

卓話『大陸横断世界旅行』パート2

松野 秀計 君

昨年、大陸横断世界旅行の卓話をさせて戴きました。今回は、パート2と言う事でその続きのお話をさせて戴きます。18年前の事で、丁度、永瀬さんがロータリーに入られた頃、僕は、世界をプラプラしておりました。

渡航国パート1は、中国、モンゴル(トランジット)、ロシア(旧ソ連)、ウクライナ(旧ソ連)(トランジット)、ハンガリー、チェコ(旧チェコスロバキア)、オーストリア、イタリア、パチカンシティ、ギリシャ、セルビアモンテネグロ(旧ユーゴスラビア)です。

パート2は、ボスニアヘルツェゴビナ(旧ユーゴスラビア)、クロアチア(旧ユーゴスラビア)、スロベニア(旧ユーゴスラビア)、リヒテンシュタイン、スイス、ドイツ、オランダ、ベルギー、ルクセンブルグ、モナコ、フランス、スペイン、ポルトガル、イギリス、モロッコ、トルコ、イラン、シリア、エジプトと計当時26カ国、現在の30カ国をまわってまいりました。

それでは前回の続きからの話をさせていただきます。

47日目；ユーゴスラビアのザグレブから夜行列車に乗り、オーストリアを通り抜け、朝早く、リヒテンシュタインに到着した。リヒテンシュタインはスイスとオーストリアに囲まれた面積160km<sup>2</sup>、小豆島とほぼ同じで人口3万人程の小さな国である。まるでアニメの「アルプスの少女ハイジ」そのもので、街全体が、かわいらしい雰囲気をかもし出している。

西ヨーロッパの国々では、中国やソ連のように国境での入国審査がなく、電車で移動中に、知らないうちに、その国に入ってしまった。リヒテンシュタインの入国スタンプは国の役所に行くとは押しもらえるらしく、早速役所へ行くことに。国の中枢機関なのに大きさは、岐阜市役所の十分の一もなく、びっくり。中に入ると日本人団体観光客がスタンプを貰うため、たくさんの人が並んでおり、興奮してしまっただけでなく、

丘の上にはシックなお城があり、街全体を見下ろすことができる。街じゃなく国全体だ。このお城やこの国は、日本のアニメの巨匠、宮崎駿の代表作、ルパン

3世「カリオストロの城」のモデルになったところであることを帰国後、知った。国の大半が山と草原のため、観光するところも無く、男ひとりでもむなしくなるだけなので、午後の列車で隣の国、スイスのチューリッヒに向かった。

48日目；スイスはとにかく物価が高い。僕のような貧乏旅行者には大変きつい国だ。前日の夕食に食べたハンバーガーとピザとコーラでなんと1,600円。ユースホステルの宿泊費が1泊1,500円。チューリッヒ湖のペダルボートも1時間600円。とにかく高い。以前、その国の物価の基準を測るにはマクドナルドのハンバーガーを基準にすると良いと聞いていたので、昼食にマクドナルドに入ってみた。当時、日本では220円のチーズバーガーが350円。ビックマックはなんと600円もする。一日の生活費を3,000円までと決めて旅行しているため、明日からは野宿をしなければ・・・。幸いスイスは治安がよさそうなので襲われる心配はなさそうだ。

いろんな国を周って分かったのは、物価は、ヨーロッパではスイスが一番高い。当時で日本の220円もかなり高い。ハンバーガー1個で普通120~150円で香港では80円位でした。各国の物価基準を計るには、マックの値段は、的を得ていると感じました。

49日目；昨夜公園のベンチで野宿をし、寝袋で寝ていたら、警官にたぶん注意された。言葉が分らず身振り手振りで対応したが、お互いよくわからず、とにかくここでは寝るなという雰囲気だったので、公園をあとにした。深夜なのでいまからホテルを探すこともできず、駅まで歩いて行く。駅のベンチを確保し寝ることにした。9月中旬なのにスイスの夜はものすごく冷え込み持ってる服を全部着込んで寝ることに。早朝、あまりの騒がしさに目を覚ますと、周りには通勤ラッシュで、人がたくさんいるではないか。時間を見るとまだ朝の5時。スイスでは朝の始動が早い分、夜も早い。8時には町中ひっそりしている。

今日は美術館に行くことに。美術館で日本人バックパッカーと知り合った。彼は立命館大学の4年生で、卒業旅行でヨーロッパを回っている。4日ぶりに日本人と一緒にになり、一緒に夕食を食べることにした。やはりスイスといったらチーズフォンデュということで、駅前の洒落たレストランに入ることに。レストランで食事するのはギリシャ以来だから、10日ぶりになる。メニューを見ても解らないので、チーズフォンデュを連呼していたら、にっこり笑ってくれたので、理解してもらえたようだ。言葉がわからない旅先での料理の注文は、レストランに入り席に着くまで勝負となる。まず、周りの見渡し、美味しそうな料理を食べている人を探し、それと同じものを注文するのが間違いがない！下手にメニューを見て注文すると、大体がはずれを引くことが多いものである。

初めて食べるチーズフォンデュのお味は・・・期待はずれ。所詮フランスパンを鍋に入っただけなチーズをつけて食べるだけなので、お腹が膨れる前に食べ終わってしまった。考えてみたら金額を見ずに注文しているので、いったいいくらなのか・・・。恐る恐るチェックをしてみたら、なんと、二人で5,000円もした。これで今晚も野宿が確定した。

夜は、ロシアの頃から寝袋で寝る事に慣れておりましたし、トイレも外でする事が多く大自然に馴染んで、これも中々いいものです。日本では体験出来ない感覚でした。寝袋の足元に貴重品を入れ、リュックは、紐で自分の身体に巻き付けて盗られないようにし、何かあっても直に動けない状態で寝ておりました。段ボールがあるととても暖かく、即ち断熱効果があって軟らかく、又新聞紙を身体に巻くとより暖かい事が分かりまして、こう言う状態で寝ておりました。

51日目；朝早くドイツのケルンに着いた。ドイツで12カ国目となる。まだ6時なので銀行が開いてなく、9時まで時間をつぶすことに。駅から外に出てみると朝もやの中に巨大な建物がそびえ立っている。これが有名なケルンの大聖堂だ。

第2次世界大戦の時も、世界的な遺産ということで、一切空襲を受けていないらしい。大聖堂の塔の最先端まで昇れるということなので、行ってみると500段以上のらせん階段が・・・。昇ること15分、最上段に着く頃には目が回ってしまった。

最上段からみるケルンの町の景色は絶景だ。街の真ん中にライン川が流れ、この大聖堂より高い建物はなくケルンの町が一望できる。ヨーロッパに来て、いろんな高い建物に登ったが、この大聖堂が一番高いのではないだろうか。まだ、パリのエッフェル塔があるので楽しみだ。

53日目；ハイデルベルグの駅から、フランクフルトに住む北京の大学で一緒だったドイツ人留学生のミハエルに電話をしてみた。ちょうど今日から友達とフュッセンまで小旅行をするらしく、途中で拾ってもらえることになった。ハイデルベルグの城へ行く橋のたもとに12時の待ち合わせ。12時ちょうどにワーゲンゴルフが目の前に止まった。さすがドイツ人。時間にはぴったりだ。ミハエルとは2ヶ月ぶりの再会。北京の留学仲間にドイツで再会できるなんて、感激だ。車に乗り込み一路、フュッセンに。小雨の降る中、アウトバーンを150kmのスピードで飛ばす。ドイツの給料の約40%が税金で取られる代わりに、高速料金は無料だし老後の心配は無いとのことだ。

150kmで走っているにもかかわらず、その横をポルシェやベンツがいとも簡単に抜かしていく。180km~200kmは軽く出ているだろう。4時間ほど走りフュッセンの街に到着。小高い山の中腹に見覚えのあるお城が建っている。ディズニーランドのシン

デレラ城にそっくりだ！ノイシュバンシュタイン城という長くて舌をかみそうな名前がついている。ここはロマンチック街道の最終地点だそうだ。お城に行ってみると、日本人観光客がわんさかあふれていた。その観光客に紛れ込みお城を見学することに。いつもは、観光地や美術館に行っても一人なので、ただ見るだけであったが、ガイドの説明を聞きながら見学すると、時代背景や歴史等を説明してくれるのでとっても勉強になる。次回からはこの手で行こう！

58日目；昼前にオランダのアムステルダムに到着。ケルンから降ってる雨が今日もまだ続いている。これで1週間ずっと雨続きだ。オランダというとチューリップとひまわり、風車のイメージが強くとても綺麗な町を想像していたが、まるで正反対だ。駅前の広場には怖そうな若者がたむろし、いたるところに犬の糞がころがっている。聞くところによると、オランダではマリファナが合法で、町のバーで普通に手に入るらしい。

ユーゴスラビアで一緒だった同志社大学の人たちとアムステルダムの駅前で、15時に待ち合わせをしていたので、行ってみると、2人とも駅前の広場に立っていた。2週間ぶりの再会で盛り上がり、みんなで夜の街に繰り出すことに。アムスには「飾り窓」という男にとってはパラダイスな場所がある。赤いランプが立ち並び、建物はショーウィンドーのようにガラス張りになっている。中をのぞいてみると、・・・。黒人ストリートや白人ストリート、デブ専用ストリートまであった。

今考えると9月中旬にオランダに行っても時期外れで花が咲いているわけでもなし、街のど真ん中に風車があるはずも無く、これが当たり前と言うことです。この飾り窓は、3ブロック位の大きさでとても広い。ナンバーワンストリートには、あふれんばかりの人がいて百貨店のようなショーウィンドーの中に・・・とこれ以上は、書けませんので省略。

66日目；今日はミハエルの友人の結婚前パーティに連れて行ってもらう。ポルターアイベント(騒がしい夜)という地元では結婚前に必ずやるパーティらしい。当人たちの家や近隣の家からいらなくなった皿や植木鉢等ガラス以外の割れるものを集め、当人の家の周りで、みんなが騒ぎ立てながら、集めた皿を割って割って割りまくる。その割った物を新郎新婦が2人で片づけをする。要は、結婚前に割れるものは割ってしまい。結婚後の2人はもう割れないよっという意味をこめたパーティだ。それが終わると庭でパーティが始まり、20人くらいの友人が集まり、深夜まで飲めや踊れや大騒ぎをして楽しんだ

7 1 日目；昼過ぎ、1 週間も居候したミハエルの家を後にし、ミュンヘンに向かう。ドイツの各地ではこの時期オクトーバーフェスティバル（ビール祭り）をやっている。一番大規模なのが、ミュンヘンのビール祭りだそうだ。6 時過ぎにミュンヘンに到着。駅はビール祭りに来た人たちでごった返し人で人であふれかえっていた。今日は寝る場所を確保するため、まずはコースへ行ってみる。やはりすべて満室で、この祭りの期間中（残り 3 日間）はミュンヘン中の宿泊施設はすべて満杯だそうだ。これで今日から 3 日間は野宿生活が確定した。

駅に戻ると同じ境遇の人がたくさんいて、駅での野宿スペースを確保するのも大変そうだ。目の前を日本人バックパッカーが歩いていたので声をかけてみると、香港人だった。幸い中国語が出来るので、一緒に行動することに。ダンボールを拾ってきて、今晚の宿泊スペースを確保し、二人でビール祭りにでかけた。会場には巨大な倉庫のようなテントが何棟も張られ、中には 2 ~ 3 0 0 人の人が巨大なジョッキを片手にビールを持ち、生バンドの演奏にあわせ、踊ったり、歌ったり、陽気に騒いでいる。テントの外には移動式遊園地や、大道芸、コンサート会場等々があり、まるでディズニーランドのようだ。でも、普通のイベント会場とちょっと違うのは、この会場にいる殆どの人が酔っ払っていることだ。会場に入りビールを飲んでいると、隣のドイツ人が声をかけてきて、「お前は日本人か？今度やるときは、イタリアを抜きにやろうぜ！」とって握手を求めてきた。きっと第二次世界大戦のことをいっているのだろう。

今回の旅行記はここまで。続きは次回の卓話にて。ありがとうございました。

➤ 閉会の辞 岡田 忍 副会長

➤ 点 鐘



次回例会のご案内 11 月 2 9 日（水）

・卓 話

担当 長野会員、谷田会員

担当 / クラブ会報委員会 原尾 勝